

視覚障害

その研究と情報

No. 196



特集

ダスキン研修生感謝のうちに帰国

1

●ルボ..... 8

これで良いのか? 点字図書館

改革提案—— 一利用者の立場から ◎水谷 昌史

●特別寄稿..... 18

盲導犬と私

——盲導犬がいなければ私は生きられない ◎直居 鉄

●先達に学び業績を知る..... 25

愛盲の精神で福祉の世界を走り抜けた

故・近藤正秋さん ◎阿佐 博

●盲学校レポート..... 36

山形盲「図形教材の利用とその作成・指導」 ◎長崎 郁夫

●今を走る..... 43

津軽の心を世界の人々に

——津軽三味線演奏家 踊 正太郎さん ◎山口 芦風

●ITコラム..... 49

携帯電話を活用してみませんか!? ◎稲垣 吉彦

2004
September

点字で読み・書き・計算する点字利用者必携の機器

■点字ディスプレイ ブレイルノート ブレイルメモ

触読(読み)と点字入力(書き)のできるKGSの点字ディスプレイ(BN46X、BM16)は、これまでの不便な点字利用環境からの脱却を促進し、点字利用の便利さ、有効性を再認識させ、点字文化をダイナミックに継承発展させる情報管理機器として、多くの点字利用者に普及しています。思考するときに大切な読む(触読)書く(点字入力)ことを支援する編集機能(訂正、書き込み、削除、並べ替え、検索等)がより充実し、計算のための電卓機能、時計、アラーム、カウントダウン・タイマー、ストップウォッチ機能、カレンダー、スケジュール帳機能により日常生活・身の回りの情報管理に、点字利用者必携の機器となりました。さらにパソコンとの接続による点字ディスプレイ機能は、電子メールの送受信(即時に意思伝達)等に欠かせないものとなり、点字情報の有料電子配信(点字毎日、視覚障害(視覚障害者支援総合センター刊)等)に対応しており、点字プリンタに直接接続しての点字印刷もできます。携帯に便利なキャリングケース(別売)もあります。

■ブレイルノート46X (BN46X)

KGSの点字技術を集大成したスマートかつハイエンドな点字ディスプレイ 8点46マス、6MB、着脱式バッテリー



¥449,000(非課税)

・オプション 外付けのドライブ(CFD-10S)を接続して、編集した文書を外部メディアに保存可能。音声合成装置(カルガボイス)を接続して編集中の文書や操作状態を音声で確認できます。

■ブレイルメモ16 (BM16)

パソコンが不得手でも、簡単に使え、場所も選ばず、使い方自由自在
8点16マス、2MB、バッテリー内蔵
有料電子配信用には
BM16-SEをご指定ください



¥198,000(非課税)

■ブレイルノート46D (BN46D)

触読専用でパソコン画面情報をリアルタイムに触読 8点46マス



¥349,000(非課税)

点から面へ！ 点字文化を推進するKGSが提案する新触覚 図形情報を点図の形でリアルタイムに表示

時代は
新触覚へ

■点図ディスプレイ ドットビュー

■ドットビュー Dot View DV-2

32×48ドット、点間2.4mmのファインピッチで構成され、より繊細な点図を表現できる世界最先端の点図ディスプレイ



新製品

¥1,460,000(税込)

■ドットビュー Dot View DV-1

24×32ドット、
点間3mmピッチ表示部の
標準型点図ディスプレイ



¥680,000(税込)

パソコン上のあらゆる画面情報を瞬時に表示し、指先から掌で認識活用できる新触覚時代を創造する点図ディスプレイです。「ドットビュー」は、マトリックス状に配置された触知ピンがアップ/ダウンして表示される点図表示部が高速にリフレッシュされるので、スクロールや拡大/縮小などの操作も思いのままです。静止画(図形、グラフ表示、地図等)、漢字はもちろん動画(ゲーム等)、点字も含めたマルチ表示があらゆる場面で自由自在ですから、図形情報アクセスに新たな可能性を開きます。

パソコンの
操作支援ツールとして

図形学習
ツールとして

漢字(一般文字)学習
ツールとして

画像触読
ツールとして

アミューズメント
分野への応用



文章表示画面例



図形表示画面例



Web情報表示画面例



ダスキン研修生

感謝のうちに帰国

従来、海外交流といえば、アメリカ、ヨーロッパなどの先進諸国の視覚障害者と交流することが多かった。しかし、この数年来、アジア・太平洋地域の国々の視覚障害者との交流が盛んになってきた。「ダスキン・アジア太平洋障害者リーダー育成事業」の第5期研修生として来日した中国・タイ・ネパールの視覚障害者3人が約10カ月の研修を終え、この7月に帰国した。研修内容を含め、今後の海外交流のあり方を考える意味で、今回、帰国前に彼らに率直な意見を聞いてみた。（編集部）

司会：こんにちは。まず始めに、皆さんはダスキンの研修生として日本に来られたのですが、この研修に応募されたときの動機を含めて自己紹介をして下さい。

殷楠：私は、中国の天津市からきました
いんなん
殷楠と申します。弱視で、天津市で按摩・マッサージの仕事をしています。天津の青木陽子先生から日本語を教わっているときに、この研修制度のことを聞きました。日本のことについて、いつも関心をもっていたので、日本のことを勉強するのにこのプログラムはとてもよい機会だと思って応募しました。



カマル：私は、カマル・ラミチャネといいます。ネパールのカトマンズからきました。全国ネパール障害者協会では会長をしています。2年ほど前、大阪で開かれたブ



ラインド・サミットに参加したときに、ダスキンのプログラムを知りました。

アップル：私は、ナンタヌット・スワンナウットといいます。丸顔で、顔が

赤いので、みんながアップルといいます。以前、カトリック障害者連絡協議会の「自立生活プログラム」で1カ月ほど日本に滞在したことが日本に興味をもつきっかけになりました。



語学研修に熱中

司会：日本にきてから、言葉も分からないし、文化も違うので、随分苦労したのではないのでしょうか。

殷楠：家を離れて生活した経験がない僕にとって、日本に来る前はとても不安でした。で、日本で研修を受けるのに、「日本語が話せない！」ということは大変なバリアだと思ったので、日本に来る前、青木陽子先生について一生懸命勉強しました。お陰で、あのときは研修生の中でも一番できたかも知れませんが、今は他の研修生の方が上手です。(笑い)

アップル：最初の3カ月は、日本語を勉強するため小さな語学学校にいました。午前中は、ボキャブラリーや文法を習いました。午後は、日本語点字のクラスとコンピュータのクラ

スがありました。日本語の点字の読み書き学習は、ちょっと難しかったですが、点字を勉強したお陰で、駅で切符を買うときなど役に立ちました。コンピュータのクラスは、専門的な日本語なので、1つ1つの単語についていくのがとても難しかったです。

カマル：私も最初は、日本語がとても難しかったです。でも、研修の終わり頃に行なわれた点字による試験では400点満点中327点を取りました。嬉しかったですね。コンピュータの日本語は本当に難しかったです。もともとコンピュータの言語は英語なので、英語で使い方を教えてもらったら、もっと効率よく覚えられたと思います。でも、日本に来て初めてコンピュータに触ったので、どれだけできたか分かりませんが。(笑い)

司会：日本のあちこちへ出かけて、いろいろと勉強したと思うのですが。

殷楠：個別研修で、日本の盲学校の教育システムについて勉強しました。長崎盲学校で3週間理療科の授業に参加することができました。これは、自分の専門が按摩・マッサージなので大変興味がありました。また、点字出版とDAISYなどITの基礎的技術の勉強もしました。とても面白かったです。中国では点字出版物や音声図書はまだ少ないし、視覚障害者のパソコン教育やネットワークは整備されていません。点字印刷・校正・製版、それにWord・Excelの使い方など、桜雲会で勉強させてもらいましたが、この経験は今後大変役に立つと思います。また研修生としてだけでなく、点字出版部の職員と一緒に仕事をして、サラリーマンのような経験をしたことも良い思い出になりました。本当はこのまま日本で働きたいような気持ちです。(笑い)

アップル：数々の団体や障害者協会を訪問し、日本の社会福祉制度についてたくさん勉強しました。例えば、視覚障害の子どもたちが通う学校の寄宿舎や、在宅ケアの援助、それに以前から興味をもっていたガイドヘルパーの現状を知ることができました。日本の視覚障害者は、ガイドさんがいるので幸せだと思いました。

カマル：福岡では、コンピュータを使ってインターネットや、Eメール、Word、Excel、ボイスチャットなど、コンピュータの勉強は難しいと思っていましたけど、やっている内に本当に楽しくなりました。ネパールの兄とパソコンで話ができしたのは、忘れられません。また、浜松のウイズで自分の白杖を作りました。よい記念品になりました。

殷楠：リハビリテーション協会などでDAISYを勉強し、自分のパソコンでDAISY録音やデータの編集ができるようになり本当に嬉しかったです！

肌で理解する日本文化

司会：研修だけではなく、日本のどんなところに興味をもちましたか。

カマル：江戸東京博物館や、国立民族学博物館の見学に行き、日本に長い歴史があることを知り、大変興味をもちました。

殷楠：子どもの時から水泳をやってみたいと思っていました。それが、日本にきて、少し泳げるようになって嬉しいです。

アップル：新潟で、生まれて初めて本物の雪に触りました。これまでこんなに寒い所へ行ったことがありませんでした。私は、いつでもどこでも眠ることができる人間ですが、夜は寒くて眠

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みにになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

—— 次号（2004年10月 No.197）予告 ——

特集 英国における触図作成機関

——その組織と作成の概要 ◎大内 進・渡辺 哲也

ルポ 点字英字月刊誌「天白ニューブレイル」に終止符

——点字文化を世界へ発信し続けた寺西勇二さん ◎水谷 昌史

先達に学び業績を知る 日本盲人社会史学の開拓者 故・加藤康昭博士 ◎高橋 智

施設レポート 盲重複障害者の一生に寄り添う

——福井県の「光道園」 ◎斯波 千秋

今を走る 第2回サフラン賞・チャレンジ賞受賞者紹介

ITコラム 点図ディスプレイが拓く新たな世界 ◎鈴木 義則

表紙写真：第79回全日本盲学校教育研究大会(左)と第10回カナダサマーキャンプと文化交流(右)。16年の全日盲研秋田大会は、21世紀の盲学校を取り巻く大きな環境変化の中で実践される、各校の特別支援教育の現状やその研究について発表・意見交換され、熱気溢れた2日間となった。また今年で最終回となったカナダサマーキャンプには盲学生ら18人が参加。9日間に亘る大自然との触れ合いやカナダ盲人協会との交流から、国内では成し得ない多くを実践し体感し糧を得た熱い夏となった。

月刊 視覚障害 —その研究と情報—

2004年9月 No.196

年間購読料 6,000円（送料とも）

発行日 2004年9月1日

編集人 高橋 実

（連絡先）社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター

〒167-0043 東京都杉並区上荻2丁目37番10号 Keiビル

TEL (03) 5310-5051 FAX (03) 5310-5053

<http://www.siencenter.or.jp/>

振替口座 00160-4-16103

発行人 障害者団体定期刊行物協会

〒157-0073 東京都世田谷区砧6丁目26番21号

印刷所 タナカ印刷株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目12番4号

TEL (03) 3567-2551 FAX (03) 3564-2920

★本誌は5媒体出版です。活字の他、点字・テープ・フロッピー・点字メール版、ともに同センターより発行しています。購読は年間で、点字・テープ半減速（1本）・フロッピー・点字メール版、いずれも6,000円、テープ普通速（2本）のみ7,200円です。